



那須町と 近現代の人々

vol.10



三井徳宝(1875-1952)

10月号は、新那須温泉を開発した三井徳宝を紹介します。三井徳宝は、山梨県巨摩郡清春村(現北杜市)に三井泉林の長男として誕生しました。明治26年単身北海道に渡ると、明治30年に帯広で「三井金物店」を創業し、実業家として頭角を現します。以降北海林産取締役、北海農産工業取締役、大北炭鉱監査役などを歴任するとともに、野付牛町(現北見市)の開拓にも関わりました。

また、徳宝は政界にも進出します。明治35年帯広町議、同37年立憲政友会から出馬し北海道議に当選、同43年北海道会副議長を歴任しました。昭和3年、北海道5区から衆議院総選挙に出馬し初当選し以後4回当選するなど、壮年のころから積極的に政治活動を行っていました。

徳宝と那須の関りは大正時代から始まります。当初松方正義・伊藤弥らが計画した新那須温泉近辺の開発計画の事業を徳宝が事業継承しました。大正12年、大丸温泉から木管で引湯し同年7月に旅館山菜を創業しました。そして「新那須温泉」と称して温泉付き別荘地として開発分譲を行いました。また、同年は、摂政宮(昭和天皇)が松方別邸に滞在し那須行啓をした年でもあります。その時、摂政宮は山菜を訪れ、山菜と温泉付き別荘地を結ぶ新橋の渡り初めが行われました。その橋は現在では「御成橋」と呼ばれています。

徳宝は新那須温泉一帯の別荘地開発にとどまらず、下村養鱒場の設置(山菜付属施設)、黒田原駅と那須湯本を結ぶ予定だった那須電気鉄道にも多額の投資を行いました。同路線の湯本停車場予定地は山菜附近だったといわれています。しかし、関東大震災により徳宝の資産が焼失すると、那須電気鉄道はその後建設中止となりました。

現在の観光地那須の礎を築いた三井徳宝。彼による開発がなければ現在の那須は地方の小村にすぎなかったかもしれません。(絵葉書は那須町デジタルアーカイブよりご覧いただけます。)



問合せ

那須歴史探訪館
☎747007



祖父母も曾祖母も健在だった頃、稲刈りのお手伝いは、私にとつて大変楽しいものであった。父が稲刈り機を押し、母が先回りして倒れている稲を起こす。私はすぐ側の小川で水遊びをしていた。刈り取られた稲はガチャンガチャンと音を立てながら一定量に束ねられ、稲刈り機から出てくる。やってみたいと思った私は、稲刈り機と父の

間に入れてもらい、父に支えてもらいながら、機械を押しした。足元はボコボコして歩きにくい上に、機械はどんどん先に進んでしまう。支えてもらってはいるものの、全く自分の思い通りにならない。自分には無理とさっさと見切りをつけ、また、元の川遊びに戻った▼祖父父母は木や竹を使い、はざ掛ける用の柵を作る。私の本当の役目はここからだ。あちこちに散らばっている稲の束を拾い集め、出来上がった柵に掛けていく。束を2つ

に割り、掛け、隙間ができないようグッと押し込む。この作業は意外と好きで、大人たちに負けるものかと、競って掛け続けた。そんな中、曾祖母は「もったいないから」と言って束からこぼれた稲を拾い集めていた▼小学生の私には、少しも無駄にしない曾祖母の姿が深く印象に残った。今では「もったいない」という言葉と共に曾祖母を思い出す。ものを大切に使う、食べ物を大切に食べる。曾祖母の「もったいない」を大切にしたい。

こんにちは 赤ちゃん

令和4年4月生まれ

猪狩 あこちゃん

あこちゃんは…
いつもニコニコ。人が大好きでやさしい子です。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。



町の世帯と人口

(9月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

•世帯数	10,627世帯 (+16)	出生	5人 (0)
•人口	24,378人 (-7)	死亡	44人 (+16)
男	12,140人 (-5)	転入	85人 (-8)
女	12,238人 (-2)	転出	53人 (-23)
		その他	0人

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

